

# 第7回地域包括ケア応援セミナーアンケート集計結果

日程:平成29年 9月22日(金) 13時30分～16時30分

会場:さいたま新都心合同庁舎1号館 講堂

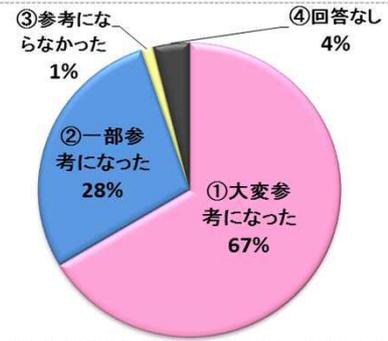
## 1. アンケートの回答数内訳

都県	市区町村	医師会	歯科医師会	薬剤師会	看護協会	医療機関	薬局	事業者	地域包括支援センター	大学	社会福祉法人	その他	回答なし	合計
4	26	5	0	0	0	1	2	19	41	10	11	32	4	155

## 2. 本日のセミナーは全体として参考になりましたか。

①大変参考になった	②一部参考になった	③参考にならなかった	④回答なし	合計
103	44	2	6	155

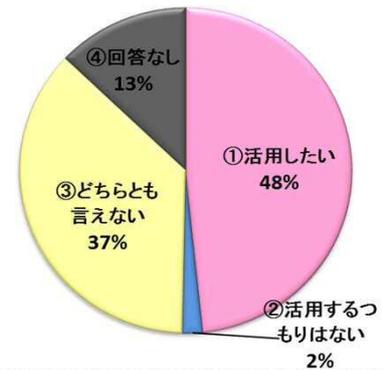
※自由記述(1) 113本



## 3. 地方住宅供給公社の取組についておたずねします。 集合住宅の空き室、空き店舗を活用したいと思いますか。

①活用したい	②活用するつもりはない	③どちらとも言えない	④回答なし	合計
75	3	57	20	155

※自由記述(2) 77本

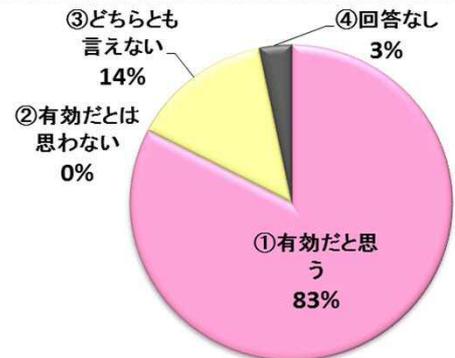


## 4. 幸手モデルについておたずねします。

(1)住民によるソーシャルワークは有効だと思いますか。

①有効だと思う	②有効だとは思わない	③どちらとも言えない	④回答なし	合計
128	0	22	5	155

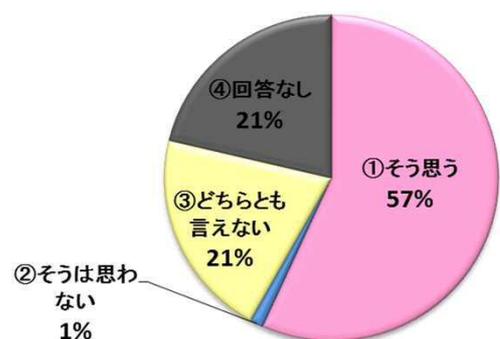
※自由記述(3-1)) 110本



(2)住民によるソーシャルワークを取り入れたい、又は住民によるソーシャルワークに参加したいと思いますか。

①そう思う	②そうは思わない	③どちらとも言えない	④回答なし	合計
88	2	32	33	155

※自由記述(3-2)) 77本



厚生局・自治体に関すること 82本、ご意見・ご要望 50本

(1) 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →①②と答えた方は、どのプログラムのこういった点が参考になりましたか。

1	中野Drの話が特に参考になった。互酬ではなく共感をベースにした新たなセーフティネットづくりは重要だと思う。今日も地元地域ケア連絡会議で地元住民の方々が自治体町内会の加入率を問題とされていました。それでは包括につながらないということですね。アンソニーキデンズの「新しい公共」に近い考え方なんでしょうか。
2	中野医師による講義。Drから見たソーシャルワーク観が勉強になった。
3	中野先生が多忙の中で地域に貢献して頂ける事が逆に不思議に思えます。幸手や和光などは地域ぐるみでシステム化されてきて・・・住民や民生委員の方も入り易くより効果的になっていると思います。医師が積極的でないと活動が困難な現状です。
4	中野先生のお話。ソーシャルワーカーも学ぶべき点が多々あった。自助・互助・共助・公助の順であってはならないとおさえた中での自助、互助の重要性、自助、互助を支えるための行助であってほしい。
5	中野先生のお話が参考になった。「自分でできるようになるのがいい事」という考え方ではなく、その個人に添う事が大切だからという視点が参考になった。
6	中野先生のお話の中から、地域包括ケアシステムとは、どういうことを考えるきっかけになりました。幸手の例を参考に、当市の「ケアシステム」を考えたいなと思いました。
7	中野先生のご講演。地域包括というとかたくなるしいイメージだったが、自分の認識を変える事ができた。
8	中野先生の講演
9	中野先生の講演が具体的で参考になった。
10	中野先生の講義。どれも勉強になったが、特に勉強になった。医療と福祉を2つ説明されることでより、福祉とは何か、ソーシャルワークとはなにかが分かりやすかった。
11	中野先生の在宅医療連携拠点“菜のはな”の取組。在宅医療介護連携推進会議。小泉さんの“シャッター商店街をコミュニティモールに”の活動。それぞれの事業やプログラムがとても工夫されていること。
12	中野先生の支援している人も支援されるべき
13	中野先生の自立とは人にさせられるものではないということが残った。新しいセーフティネットの作成。
14	中野先生の取組のプレゼン、捉え方、聞けて良かった。パネルディスカッションも北本先生のテンポがよく、適任。
15	中野先生の発表が参考になり、考えを改めるキッカケになりました。生活支援コーディネーターとして働き、地域による支え合いを重視しがちですが、偏りすぎず、コーディネーターの専門性も大事だと思いました。
16	中野先生の話が、ふだん自分の考えていることを理論的に伝えてくれて嬉しかった。組織に所属しない社会福祉士として、地域に根付いて活動しようとあらためて考えさせられた。
17	中野先生の話がとても参考になった。視点の持ち方について気づかされた。
18	中野先生の話は確かに先進的でよい。しかし、地域支援事業実施要項とはあまりにかけ離れている。自治体を混乱させたいのか？
19	中野先生の話及びパネルディスカッション

(1) 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →①②と答えた方は、どのプログラムのこういった点が参考になりましたか。

20	「地域包括ケアからケアする社会へ」
21	「地域包括ケアからケアする社会へ」 ソーシャルワークができる看護師を育成するためのカリキュラムへの対応や教員として、取り残されないよう、地域のニーズ、現状と、現場の視点でとらえていく必要があると感じた。
22	住民に、「地域包括ケアシステムとは」を伝える事が仕事の中であるが、中野先生のお話を聞き、まずは専門職が地域包括ケアシステムとは何か、何を指すのかを深く理解する必要があると感じた。幸手モデルの様々な取組とその背景が知ることができ刺激となった。
23	「地域包括ケアからケアする社会へ」 成功ケースと言われている方法をモデルとして当てはめる。自立、自助、互助の押しつけ、効率化、生産性といった考え方が広がりすぎていると改めて感じました。基本である個別化、伴走者としての支援の大切さが地域の豊かさにつながることを再認識しました。
24	「地域包括ケアからケアする社会へ」中野先生 具体的な取組がとても理解しやすく、今後の支援の参考になりました。
25	“医療を中心としたコミュニティ”の考え方がとても良いと思いました。中野先生のお話が分かりやすかった。
26	木村先生のような方が地域に必要です。特に医療関係者は地域の力ではなく、行政が中心になって進めることが良いのでは。
27	“地方住宅供給公社の取組”他公社の事例や実績を知る事ができたため。
28	地方住宅供給公社の活動。幸手市での多様な取組。
29	地方住宅供給公社の取組の話は、資料だけで良かったのでは。あまり参考にならなかった。他は良かった。
30	公社：住宅公社で地域ケアの取組をしていることを知らなかった。 菜のはな：連携の大切さ、コミュニティの大切さを知った。 元気スタンド：素晴らしい（資金はどうなってるのか知りたい）
31	公社・公営などの大規模団地で行われている介護の仕組みがわかりました。
32	公社の取組が参考になった。
33	公社の話が聞いて良かった。安否確認等、高齢者に対応した援助をされていることを知り、一緒に協力、協働した働きかけができたらよいと感じた。
34	幸手プログラム。他の市町村の取組がとても勉強になった。
35	幸手モデルの、専門職と民間（コミュニティデザイナー）の連携等。
36	幸手モデルの運用に際して活用している財源等補助金等について教えてほしい。どのように採算をとるのか知りたい。
37	“幸手モデル”を通じた“地域包括”の考え方に勉強させられました。
38	幸手モデルの解説。地域包括ケアシステムの情勢のイメージがつかえました。
39	幸手モデルの取組

(1) 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →①②と答えた方は、どのプログラムのこういった点が参考になりましたか。

40	幸手モデルの取組、全般的に興味深い内容でした。特に重要かつ参考になった事に関しては、やはり、医療や福祉というくりだけでなく、街全体として、人をどの様に支えていくべきか？という疑問をもたなければ何も始まっていかないのだということ、又、自分達が主観的、客観的に行動していかなければならんということ等を学ばせていただきました。
41	幸手モデルの取組・コミュニティデザイナー小泉氏のお話。
42	幸手モデルの取組を知ることができた点。
43	幸手モデルの紹介。
44	幸手モデルはうらやましいです。地域とつながりながら、専門家はその力を発揮できる機会をつなげていける内側から発生する熱量がすごいです。
45	幸手モデル事例を聞きにきました。その前段についてどのように幸手モデルと呼ばれるようになったか、理解できました。“住民主体”がキーワードかと思いますが、個別化であったり、生活モデルへの転換・・・様々な言葉を参考にしていきます。
46	幸手取組がよく理解できたとともに、考え方そのものに大変共感いたしました。この考えをもっと全国的に広まることを願っております。
47	地域包括ケアからケアする社会へ。幸手モデルの取組。寄り添う地域ケア伴走しながらその方の人生に共感し、その方の思いを組み入れるケア。
48	地方住宅供給公社における安否確認事例 幸手モデルの取組における生活モデルによる生活支援の話。 パネルディスカッションにおけるコミュニティデザイナーの話
49	「住民によるソーシャルワーク」の専門職でない方々の地域づくりへの取組がすばらしいと思いました。
50	ソーシャルワーク、社会福祉士について詳しく知ることができた。
51	ソーシャルワークの考え方、ソーシャルワーカーの現場でのふるまいなど勉強になった。
52	ソーシャルワークの仕事内容や専門性について理解することができて大変感動しています！
53	ソーシャルワークの実践。
54	ソーシャルワークの重要性を緊迫に考えなければならないという事。
55	パネルディスカッション。
56	パネルディスカッション、学びが深まりました。
57	パネルディスカッション・ソーシャルワーク・傾聴する。
58	パネルディスカッションがとても参考になった。具体的な話がきけた。
59	パネルディスカッションでコミュニティデザイナーの活動に基づく話がきけたことが参考になりました。
60	パネルディスカッションでソーシャルワークの意義が理解できた。
61	パネルディスカッションで生の声が聞けて良かった。
62	パネルディスカッションで沢山ヒントを得られました。
63	パネルディスカッションにおけるコメント。幸手モデルはそれぞれの分野が協力しあっている部分を感じた。

(1) 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。  
 →①②と答えた方は、どのプログラムのこういった点が参考になりましたか。

64	パネルディスカッションについて、団地の高齢化に対する、活性化を図る仕組みや基礎福祉の参考になりました。
65	パネルディスカッションの方が、それぞれの方のいきた意見が聞けた。聴衆の方の質問も交えて対話が広がって、理解が深まりました。
66	講演や、パネルディスカッションも含めて、それぞれの役割分担と協力関係をもう一度改めて整理できた。
67	自分が働いている地域の参考にした。パネルディスカッションの「住民によるソーシャルワーク」が良かったです。
68	普通の暮らしを支える地域づくりが参考になりました、
69	方向性が明確な市があるのだなとよく分かりました。
70	お互い様が成り立つ地域を目指したいと思っていましたが、その副作用も意識していこうと思います。本人の生活的価値に添う→成果を求めず伴走する。
71	コミュニティデザイナーのなり手の養成
72	コミュニティデザイナーの小泉さんの活動内容。高齢者の居場所作りやネットワーク作り等について参考になった。
73	コミュニティデザイナーの役割が知れて良かった。
74	コミュニティデザイナーを知ったこと。
75	コミュニティデザイナーが増えていくといいです。
76	サロン活動。
77	セミナーの内容がとても良く分かった。幸手市にある学校に勤務し、お話を伺いながらも？がありましたが、今回のセミナーでよく理解できた。
78	ひとりひとり必要なケアは違っていて、その人に合った制度を使えないと意味がなく、それを導く人が必要であり、それにはいろいろな連携がなくてはできないと分かった。
79	ぼんやりとしか理解していなかった「地域包括ケア」の現状、今後期待する役割についてとてもよく理解できた。また先生の取組にととても感銘を受けました。(中野先生のお話) とても分かりやすかった。このような活動が全国に広がるといいなと思いました。(ぷリズムさんのお話)
80	一般の方と医師、看護師等専門職の垣根のない連携 団地内の地域コミュニティモール 我々の団地のコミュニティや支え合いの現状をよく知る必要がある。
81	浦和はこれからです。
82	皆様のお話それぞれ大変勉強になりました。地域づくり、何かやりたいと考えており勇気をもらった気持ちです。
83	既存の取組を活用して育てることの重要性を認識できた。
84	具体的な取組として、参考になりました。
85	具体的な点
86	元氣スタンド・ぷリズムの小泉氏の説明。ただし、このような方をどのように見つけ、育成するのが課題。

(1) 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。  
→①②と答えた方は、どのプログラムのこういった点が参考になりましたか。

87	公団には多問題家族が居ることが多いので、公団の取組には期待したい。また、幸手と杉戸の行政は横にネットワークを広げ縦割でないのが素晴らしいと思った。
88	最後のコミュニティモールは見学に行き、参考にしていきたいと思った。
89	埼玉県は集合住宅が多い。その取組に自治体として取り組む姿勢は参考になったため、地域包括ケアシステムというのは、医療、介護、福祉住まいばかりでなく、築いていくものということ。
90	市民が自発的に活動を伝える仕組みづくり、環境の具体例を幸手ケースに習い話を聞いた。 (2)「地域包括ケアからケアする社会へ」
91	支援する人も支援を受ける人であるということ。ケアを支える仕組み作りが必要であること、制度にあてはめるのではなく、住民のやり方に制度を合わせるということ。
92	私の県は外国人が多く、団体の70%が外国人というところもあり、対応が難しい。どのように福祉につなげるか。
93	自治体の役割。システム作りを担うべきと認識した。
94	自助・互助は時としてプレッシャーや重荷を抱えさせてしまう事。
95	事例を知ることができ参考になりました。
96	取組について、活動報告、写真等もあり、とても参考になりました。新しい発想ばかりで、とても刺激を受けました。同じような事をするのは難しいですが、参考にし、働きかけをしようと思います。社福士としての専門性を生かして、活動していきたいと改めて思いました。
97	取組の紹介のみでなく、概念整理のようなところからお話いただき大変スムーズに話を理解できました。地域包括ケアシステムや共生社会などのわかるようで分からなかった、もやもやしていたところを言語化していただき、良かったです。(プログラム=幸手市の取組)
98	住民を巻き込んだ社会プロジェクトとのアプローチ 最期まで住みなれた場所で暮らし続ける。具体的な姿を見れました。
99	住民主体の活動。何にでも手を差し伸べて、過剰に支援してしまうことは、その人の自立を妨げます。住民主体であっても、クライアントのエンパワメントを高める支援をする視点をもってほしいと思います。
100	新しい地域包括のケースを知ることが出来た
101	全住連について、住民によるソーシャルワークについて
102	足立区の公社であるが、地域包括との繋がりが強いものがある、しかし、住宅行政と福祉行政の違いが不明である。
103	第二層SCとして勤めているが、担当地区にも団地があり、どのように動いてもらえるのか等の参考になった。
104	団地、地域包括ケア、ソーシャルワークのキーワードの接点をもっと掘り下げて欲しかったです。
105	地域包括ケアとは？現状や改善点が自分なりに理解出来た。「ケアする社会」に関して少し難しかったがとても興味深く聞きました。
106	地域包括ケアについて団地再生の観点から参考にしたい
107	地域包括ケアに対する事例。何が重要かということでもまだ手探りの状況である。いろいろな立場からソーシャルワークについて議論できたことが参考になった。
108	地域包括ケアの新しい取組について事例を出しながら分かりやすく、説明されていたと思います。

(1) 今回のセミナーは全体として参考になりましたか。  
→①②と答えた方は、どのプログラムのこういった点が参考になりましたか。

109 地域包括ケアの中で福祉職、住民の役割、機能について具体例も含め、理解することができました。看護教育の中で生活、個人の価値観を学ぶことは、ハードルが高く実習で強化しています。本日のセミナーで得た知識を授業に反映していきたいと思います。

110 地域包括ケアはプロがいかに伴走者となる必要があるか理解した。食についても傾聴が大事だと思う。

(2) 地方住宅供給公社の取組についておたずねします。  
集合住宅の空き室、空き店舗を活用したいと考えますか。

1	地域に活動場所が少ないので、空き店舗があれば活用したい。
2	地域に空き施設を開放することはより、地域社会の一員としての意識を持ち積極的により広く地域活動を希望する。
3	地域の方でソーシャルビジネスに取り組み、場を必要としている方がたくさんいるので、その方々とマッチングしたいと考えます。
4	地域のサロン。
5	地域の活動拠点として。
6	地域の活動場所として活用したい。
7	地域の保健室、健康相談。
8	地域活動の拠点として活用したい。
9	地域活動をするにもまず場所がないため、場の確保が全ての元になる。
10	地域向けにサービスを提供（コミュニティサロン、カルチャースクール）
11	地域住民が1日居られるような場所として活用したい。何かするのも良いですが、何もしないでいて、近所の人とお話ができるような雰囲気がある場所として。
12	地域住民の集いの場。介護予防の取組の場。会場の確保、会場費がネックになり、地域の集会所がなかなか使えないところがある。
13	地域包括支援センター、NPO等の活動拠点
14	地域包括支援センター・生活コーディネーター事務所・NPO事務所・サロンの場所提供
15	地域包括支援センターや、集いの場所に使いたい。
16	通いの場として活用したい。多世代交流や通所サービス、認知症カフェ、体操教室等。
17	通所型サービスB・サロン
18	定期的に医療、介護福祉その他の専門職が訪問して住民の健康・医療・生活相談に乗る。出産、子どもの教育の問題にも対応できるとよい。
19	勉強会、研修会の場
20	グループホーム
21	サロンのように人が集う場としてやちょっとした体操教室、または子ども食堂のようなことをやりたい。「場所がない」という理由で人材はいても活動が広がらず。
22	サロン等の居場所
23	活動拠点として。
24	集会所の活用はすでに行っている。可能であれば行いたい。
25	地域コミュニティ再生拠点

(2) 地方住宅供給公社の取組についておたずねします。  
集合住宅の空き室、空き店舗を活用したいと考えますか。

26	包括支援センター等が入ってほしい手作り総菜弁当などが安価に売っている店
27	精神障害者のためのグループホーム
28	団地の高齢化に対してできることから始める。
29	学生の下宿をして、住民のエクササイズ教室
30	許認可を持ってはいないのですが、コミュニティモール（都営住宅の空き店舗）や保育施設等へ活用出来ると思います。
31	活用できる場＝空間があるなら活用したい。地域の寄り合い、集まれる場はあるところにはあるか、ないところにはない。アクセスする能力は個人差がある徒歩10分も困難な人が地域には多くいる。
32	活用したいが、空き室を利用できる所がない。
33	活用する発起人をどのように発掘できるか課題。
34	活用する方法を考えていく必要がある
35	居場所ほか、その地域のニーズによって活用できたら良い、まだ“できたら良い”というレベルです。
36	高齢者のコミュニティーの場所（サロン）に活用したい。
37	高齢者の集う場（健康相談、お茶のみ会等）
38	高齢者の健康維持支援等
39	高齢者の支援拠点等がある住宅があり、これからも検討したい。
40	高齢者の方が気軽に集まり事ができるサロン、カフェ等
41	住民が集まって話や相談ができるようなところ。
42	住民の交流の場、サロン、フラグなど、同じ趣味を持ったり、興味のあることからの同志の集まる場所。看取りの場とすることも可能だと思っています。薬局としての販売事業
43	住民の集う拠点として。
44	住民の集まるカフェなど。
45	住民主体の活動の場。
46	住民主体の活動団体の根拠として提供したい。
47	住民主体の通いの場としてぜひ。
48	人が集まれば、地域を知ることができる。
49	空きが無い。
50	空き室を学生さん等の若い方達に活用してもらおうと活性化するように思う。
51	空き店舗が多くあるから

(2) 地方住宅供給公社の取組についておたずねします。  
集合住宅の空き室、空き店舗を活用したいと考えますか。

52	空き店舗の活用は有効だと思いますが、賃料にもよるのかと・・・コミュニティの場にはいいと思いました。
53	URとの協力関係は、どうすれば良いのか。利用料金の問題と担い手の問題をクリアしなければならない。
54	エレベーターなしの4階、5階に若い世代（大学生）に入ってもらおう。
55	これから実態調査をして、取り組んでいく段階なので、今回取組を知ることができて参考になりました。
56	ソーシャルワークとは区別して考えています。住民観の互助ボランティア等有効だと思う。
57	そのような立場にないため、しかし、事業所として活用しても良いと思う。
58	活動する前に住民が自分達の地域を支え合う仲間を多く集まれる機会を行政や社協のイベント等を開催して拡大することが大切かと思っています。
59	近くにないため。
60	具体的な説明がなかった。
61	具体的には今すぐ思いつきませんが、空きっぱなしはもったいない。有効活用して欲しいと思います。ぶりズムさんのような活動への提供は理想的と思います。
62	傾聴や手法を学ぶ機会があればできると思う。
63	現在の団地の取組について、応援したいと思います。
64	現時点では不明。
65	交流の場。
66	交流場所の創出。
67	公社職員のため。
68	今後の人口減少社会、超高齢化社会に対応すべく新たな手段も検討し活用していきたい。
69	私がということではなく、近くの大学、高校など連携してプログラムを考えると良いと思います。
70	時間が短かった。
71	自分の住む団地にも活かさないか考えるきっかけをいただけた。
72	質問の本題からは外れますが、（無理なのは承知のうえで）空き室についてシェルターとして活用、更に安価で一時的に居住など、本来の住居としての活用できたらと思います。話が変わりますが、安価な公営住宅が更に必要かと常々感じています。
73	集合住宅があるということはその戸数の分だけ、問題を生じる可能性があると言えると思います。しかし裏を返せば戸数の分だけ協力し合える輪が増えます。その1つの輪として空き室を利用したい。事業所は必ずあった方がより安心した生活へとつながると思うため、やはり、低所得者でも安心して利用できる事業や食事提供のサービス施設等で活用していければと思いました。

(2) 地方住宅供給公社の取組についておたずねします。  
集合住宅の空き室、空き店舗を活用したいと考えますか。

74	集合住宅は高齢化率が高い印象がある。空きスペースが拠点となり、地域が活性化していく可能性がある。
75	団地活性化、地域コミュニティ、障害者支援施設に既に入っている。
76	団地住民による自主的な活動によりつながりを作り、助け合い、協力し合うつながりを作る土台とする とよいのではないか。
77	薬局（一企業）が主体となることは難しいのでは・・・

3-(1) 幸手モデルについておたずねします。  
 住民によるソーシャルワークは有効だと思いますか。  
 →その理由は何ですか。

1	ソーシャルワーク機能の分散は必要。
2	ソーシャルワークとは区別して考えています。住民間の互助、ボランティア等有効だと思う。
3	「住民によるソーシャルワーク」という言葉が少し色々なものを含みすぎていて難しい。住民が「きっかけとなる」ことは大変有効だと思うし、地域におけるソーシャルワークを多様な主体が担う（専門職含め）中に、住民がいることは、地域がひらかれていくようなポジティブな印象もありよいことではないかと感じた。
4	「地域包括ケアが効率化を求めるものではない」ということに共感した。「一般住民がソーシャルワークをする」というのはどのレベルの事が気になります。個別のケースについてソーシャルワークを行うには、経験知識が必要となってくる。
5	経験から、認知症や疾病があっても近隣や友人の支援を多く受けている方のほうが楽しく暮らしているようです。迷惑をかけるという発想ではなく、バランス良く人に頼っていけることが自立するポイントのような気がします。ソーシャルワーカーはそのようなバランス良く人に頼るつなぎ役となれると良いのかと思います。
6	個人のケアを大切にするためのソーシャルワーク、財源の効率化だけを追うのではなく、新たなセーフティネットを張るための連携としてソーシャルワークが有効であるということ。医師なのにソーシャルワークと理解し、実践していることに感動した。
7	住民という資源を活用しての地域づくりを通して、いつまでも自分らしく住み続けることができるのかと思います。クライアントに対しての個別化はよいと思いますが、ソーシャルワーカーの能力はある程度標準化する必要があると考えます。能力によって左右されてはならないので・・・発表の中で介護保険のヘルパーの方が安価だから・・・と仰っていましたが、介護保険は安いから利用するものではありません。9割8割は保険です。ヘルパーは掃除屋でも家政婦でもありません。まずはインフォーマルサービスから専門職が提供するのが介護保険です。
8	住民による（結果としての）ソーシャルワーク専門職による（意図的な）ソーシャルワークだと思う。有効かどうか「結果として」ではないか。
9	もっと住民ソーシャルワークを増やし、それをまとめる専門職ソーシャルワーカーも大切だと思う。
10	住民による小さな取組の積み重ねが大切と考えます。
11	住民の方の心配事などなかなか表に出てこないのも、自然体で住民とつき合いながら広く支援システムとつなげることは重要と思った。
12	住民の参加がしやすいと思われる。
13	住民のみに丸投げすることが、「自立した住民主体のソーシャルワーク」ではなく、専門職と関係しあいながら、やっていくことで初めて有効になると思う。
14	住民自らの広がりがあってとてもよいと思った。
15	住民も個性があり様々、有効な面も多くあると思うが、コントロールも必要な場合もあり、トラブルもあるのでは・・・（しかし今後は必須だと思う。）
16	住民をちゃんと巻き込んでいて、一人にしない町づくりをしている。
17	住民を巻き込んでのシステム作りに敬意を表したい。
18	「住民主体」というところが重要。ただし、強制ではないこと。
19	住民・地域との連携が主となっている点。但し、何事も時間的制約がありその点を具体的に討議してほしかった。

3-(1) 幸手モデルについておたずねします。  
 住民によるソーシャルワークは有効だと思いますか。  
 →その理由は何ですか。

20	住民1人1人がそのような視点にたつことで問題の早期対応が可能となると考えるため。
21	住民が、自発的に活動していることは素晴らしいし、多くの人が積極的に参加し、自分の事だけでなく、お互いの事を思い合っているように感じられる。
22	住民自身が自分達の生活を考えていくという意識を持つことがスタート。それが難しいが。
23	住民主体であること
24	住民だからこそ、課題の把握や地域とのつながりができると思うので、有効だと思う。
25	住民だからこそできる、わかることがあると思うため。
26	住民だけに委ねてはなかなかうまくいかないと思う。行政や市役所からうまく助け舟を出してあげることが必要
27	住民でソーシャルワークをおこなう事はいいと思うが、何かあったときの責任等などが不安。
28	住民同士のネットワークに勝るものはない。よく近隣の方からの相談があり、情報源としては貴重である。
29	住民に寄りそえるのは住民。たしかにと思いました。
30	重要だと思うが巻き込むには大変だと思う。
31	主体性がある。
32	有効であるか、住民をどう中にひっぱるか問題。
33	専門職だけでは、地域包括ケアシステムは成り立たない。住民によるソーシャルワークが有効に動けるよう、自分の立場から協力していきたい。（やれることをやっていくことから始めたい。）
34	専門職と素人（住民）どちらも支える側と支えられる側だと思うので、（逆にいうと素人こそ専門家（方向性を知っている、やりたい、こうありたい）にもありうるので）
35	専門職に相談するという一方で、住民も敷居が高いと考えてしまっているところが、あると思う、それを下げて「話しやすい」環境作りに役立つと思うから。
36	専門職にはない、親近感があると思うので。
37	専門職の方だけではなく、一般市民の方も高齢者に対して、関わりをもつことによって、高齢者のQOLの向上にもつながるのではないかな。
38	専門職や行政、住宅事業者等だけでは対応できない部分で有効だと思う。
39	専門性のある方が存在することが有効だと思う。
40	介護保険などでは行えない自由な取組が住民主体で行える点（本当に必要なことができる）
41	介護保険の計画書などにしばられずに人と向き合うことができると思う。
42	介護保険は財源、人手不足が明らかだから。
43	「Only One」に対してActionしている点。
44	B類型にあてはめずに自助努力されていて、インパクトありました。

3-(1) 幸手モデルについておたずねします。  
 住民によるソーシャルワークは有効だと思いますか。  
 →その理由は何ですか。

45	医・行・福連携ができています。
46	イベント型は格好いいが、そこから漏れている人を地域で大量に見ている。
47	多世代が交流でき、地域に根付き活動的になる。
48	お互いに感心を持ち合う事や、おせっかいな人が必要だと思う。
49	介護予防等の総合事業につながるのでは
50	会話をして、その人の全体像を見ていくのは有効だと思う。
51	企業家精神を受け入れる。
52	絆の重要性が宣伝されている現在では、やはり皆さんの互酬ベースの共同体強化のイメージを皆さん持っています。そこを壊していく仕掛けには、かなり時間もかかると思います。気づく人材を増やす方策も必要だと思います。
53	共感と伴走者：専門職の役割の理解、専門性の尊重について地域での理解より豊かな活動になるので、有効かと考えました。
54	行政が主体で各分野の協力体制の構築があって初めて実現でき、素晴らしいと思う。
55	元気スタンドぷリズム大変良かった。専門職でないから良い！
56	現場をよく知っているから。
57	公的機関だけでは、手段や方法に限界があります。組織や枠組みにとらわれない。当事者である現場を知る住民を交えない限り有効性が伴わない。
58	公的機関で実施しきれない支援をカバーできる。
59	高齢化が進む中でどういう形にしる孤立化を防ぐものになる。
60	高齢化社会で制度や公的、社会サービスだけで生活のしにくさ（困難）を解決していくことは難しいと思います。住民によるソーシャルワークは地域力を高める一方法として、必要な活動と思います。
61	高齢者に限らず多世代に向けに取り組んでいる点。
62	高齢になって、助かったり、楽しめたりする事は、必要だとは思いますが、閉鎖的で人と関われない人を助ける事は難しいと思う。
63	個人での支援には限界もあります。しかし、沢山の人がいればその分手助けの手が増えるため、また、見慣れた人の手は専門職に匹敵するマンパワーであると考えているため。
64	幸手のやり方は自然体から町全体に広がって現在に至ったと思います。強制的では長く継続できないと思います。
65	資源をうきあがらせていくことが重要と感じました。
66	システム作りに積極的な人達を集めるのが大変そう。発起人やリーダーシップをとれる人が必ずいるとは限らず、また役所関係の人達と関わっている仕事をしているが、熱意は感じない。
67	自治体によりけりだと思う。
68	自発的な継続でないと継続は、難しいと思います。そういった意味で、住民主体は重要だと思います。

3-(1) 幸手モデルについておたずねします。  
 住民によるソーシャルワークは有効だと思いますか。  
 →その理由は何ですか。

69	自分達のことだから、“我がごと丸ごと”というキーワードが聞かれつつあるが、住民自身はその気にならないと、専門職や行政の押しつけでは意味が無い。楽しんで地域づくりできている様子がよく分かる。
70	自分の地域のために考え実践していくことは良いことだと思う。
71	自由に行える点。
72	人事でなく、自分たちの問題として考えられることが第一歩だと思う。
73	隙間は絶対うまれると思います。住民ひとりひとりがサービスを理解、さらに作り出すということが、大変重要だと思います。
74	制度的な部分では補えないことなどもできる。住民にしかできない事もあると感じるから。
75	前半の説明が長く、いまいち“住民によるソーシャルワーク”の実像が伝わって来なかった。
76	そうありがたいが、平凡な自分にはお互い様が精一杯です。
77	その地域に住んでいる方が一番分かっており、生活の基盤にあると考えるためです。
78	その地域によってニーズが違うし、理解できるのはその住民だから。強いリーダーのいる市町村は実現可能しやすい。和光市やさいたま市、幸手市などの一部。技術や人材の居ない所も実現可能にして欲しい。
79	地域性が分かっているからこそその発想がでると思うので、とても有効だと思いました。住民がそのような意識をもってくれるよう、働きかけをしないとと思いました。
80	地域で自分らしく生活できる。方向性がどこに自分がいれば良いかも分かる。“生きる”希望にもなっている→なる。 住み慣れた地域で安心してらせる。有効と考える。
81	地域の自律（自立）は重要だと思う。
82	地域の人々が生きがいを持って生活出来よう細かい目線でサポートしている。
83	地域の人を一番理解しているのは、その地方の住民だと思います。
84	地域自らの支援関係が可能
85	つなぐ人、バックアップする人がいて共感が広がると思うから。
86	糖尿病関連の事しか存じあげなかったが、カオス的成長をされていることに驚きをもてたし、参考にしていくつもりである。このような機会を与えてくれた関係者の方々に感謝申し上げます。
87	都市（区部）のソーシャルワークとして、商売の一角で焦点の活用例として有効と思う。
88	とても良い取組なので。
89	何もしないで、超高齢社会と人口減少の問題を乗り越えられると思わないから、本当は頑張っただけだが、行政の政策に期待が持てない。
90	何とも言えない・・・助けあいには正しいし、理想型としてはいいと思うが、システム化するのは難しい。
91	担い手側を助けるシステムを作られていることが素晴らしい。 コミュニティデザイナーが医師に連絡できるなんて夢のようです。

3-(1) 幸手モデルについておたずねします。  
 住民によるソーシャルワークは有効だと思いますか。  
 →その理由は何ですか。

92	認知症の方や障害者、母子、生活保護など包括的に関わることにもつながる。
93	年齢階層、男女、ケアの要・不要などを問わない取組。専門家と一般市民の強調・協力のあり方。 Q) 市内の他の地域の“包括ケアシステム”はどのようになっているのでしょうか。
94	引きこもり防止
95	一つの事例としてはよいと思う。団地（集合住宅）のない地域もあるし、中核となるHPがない地域はどのようにすすめていくのがよいのか。
96	福祉アクセシビリティを高める有力な手段だと思います。
97	福祉的な関わりは不可欠。アセスメントが大切である。
98	普段の様子が見える関係は、とても大切だと思います。
99	プラス専門職の上手な関わりがあるのだと思う。住民の活動もとても重要だが、そこに専門職が本人の生活を大切にしておの人の生活に必要なだけのほどよい支援をしているのが、とてもよいのだと思った。
100	まだわかりません。
101	みんなが思っている“スキマ”に手をさしのべている。
102	むずかしすぎる
103	もちろん有効です。その分、民協・自治会・老人会などがバリアを張っていて、大変です。浦和は、行政と地主の町ですね。
104	役割分担が必要かと
105	やはり、住民の方は日常を知っているので、変化にも気づきやすい。その気づきを大切に、住民と市などの公的な機関が連携しやすい体制づくりが必要だと改めて感じました。
106	有効か無効かではなく、今までも地域の中で行われてきたことであり、自然だと思います。その支え手を支えるしくみが有効だと感じました。
107	有効だと思うが、ノウハウもなく継続性にも疑問がある。専門職の関与も必要。
108	寄り添う、本当に必要なものへ最短でアプローチできる方法として有効と思う。
109	隣人のことをよく知っていると思うから。
110	私は社会福祉士、精神保健福祉士をしていますが、ソーシャルワーカー及び機能が地域包括ケアになぜ取り上げられなかったか、疑問を持っていました。今回中野先生及び北本先生が取り上げられ、納得いたしました。素晴らしいです。

3-(2)住民によるソーシャルワークを取り入れたい、又は住民によるソーシャルワークに参加したいと思いませんか。  
⇒その理由は何ですか。

1	「住民主体で！」と力を入れていて行き詰まっていたところがあるが、住民に全てを任せることがいいということではなくて専門職としても関わっていくことの重要性もわかった。
2	「認知症の方や障害者、母子、生活保護など包括的に関われることにもつながる。」 共生社会にもつながる。
3	お互いの暮らしを支え合っていくために住民の力が必須だからです。ですが、“自由”“住民主体”の意識を忘れずにしたいです。
4	すでにあるのでそれをさらにつなげ広げたい。(かかえ疲弊している団体多い。)地域の課題を一緒に語れるようになりたい。
5	こちらから用意するものには限界があると思うので、今住民の方が何を望んでいるか、困っているか、精査したい。
6	これから更に高齢化が進む。何れ自分たちも介護されることになる、ともに若い人もいなくなるから。
7	しかしネットワークの構築が大変かと思われる。
8	すぐではないが、いつか参加したい。
9	すみません。今回「ソーシャルワーク」について初めて知ったような初心者ですので、この時点で何とも言えません。今後勉強していきたいと思います。
10	ソーシャルワークは専門職や一部の住民のみで行うものではないことを改めて考えました。
11	そのための時間がないため。
12	その立場に立っていないと思うから。(知識 その他)
13	それがないと、本当の意味で地域が盛り上がっていかないと思う。
14	そんな地域だといいなあとと思います。参加していきたいです。カッコいい人を増やしていきたいです。そのシステム作りが重要だということが分かりました。
15	ただし専門職が受け入れてもらえない。
16	バックアップの体制としても、住民主体のソーシャルワークに参加したいです。取組みたいなと思っていますが、なかなか進まず、どうしていいかと思ってましたが、参考にしていきたいです。
17	ぶりズムの発表を聴き、共感できたためです。本来の生活に本来であれば「専門職」は必要ないはずだと思います。あの頃は良かった、そう言われる昭和の年代は恐らく専門的な言葉で表現される前にできていたのだと感じます。時代が進み、様々な面で便利になった平成にはない良さを今一度思い出さなければならぬ時期にきてるのかとも考える事が出来ました。
18	まだ深く理解できていない。
19	まだ必要を感じていないから。参加するには時間もない。
20	安否確認や引きこもりへの対応など、取り入れていきたいと思いました。
21	一番スムーズに活動が広がっていくと思うから。
22	既に活動されている方はたくさんおり、連携つながっていきたいと思います。
23	期待を込めて、そう思います。
24	居住者のニーズに合っていれば、参加すべきと思うが、立地条件により、逆に反発されると思う。

3-(2)住民によるソーシャルワークを取り入れたい、又は住民によるソーシャルワークに参加したいと思いませんか。  
⇒その理由は何ですか。

25	現在行っている事業と按分させることなど、考える点が多い。
26	個人情報はどこまで許されるかは別として住民によるソーシャルワークは有効ではないかと思う。
27	個人情報を住民としてどう取り扱うかが不明である。
28	公営住宅を管理している公社なので、現状ではすぐソーシャルワークを取り入れるのは難しいと思います。
29	幸手でいうコミュニティデザイナーのような方は規模は違えど（人知れず行っている方も）居るはずなので、専門職としてはこのような方々の横の繋がりを持てる様に活動しなければと思います。押しつけではなく、「やりたい」の背中を押すことをしなければ地域包括ケアは絵に描いたもちになってしまうかと感じています。
30	幸手の質と自己の地域の質が違うのでスムーズにできるか不安はある。
31	歳を取っても、元気に地域社会で生きていきたいと思うので、参加して行きたい。
32	参加したいという思いはあっても、つながりを作りたくても、子育てなどでなかなかスケジュール的に難しい。
33	参考にして、私達の地域に合ったものを、作ってあげたいと思います。
34	支援により、生活の質をアップできると思う。
35	私はCSWですが、組織に属していません。（透析とSLEEPで）ただ住民として、自身のもっているものを活用できればと考えております。伴走、翻訳、とても共感できるキーワードありがとうございました。
36	自発的に、自主的にというのが難しい取り入れたいと押しつけになってしまいそう。
37	自分の住んでる地域で、社会貢献できたら嬉しい
38	自分達のことだから、“我がごと丸ごと”というキーワードが聞かれつつあるが、住民自身はその気にならないと、専門職や行政の押しつけでは意味が無い。楽しんで地域づくりできている様子がよく分かる。
39	自分達の事を自分達でやり、意識を高める必要があると思う。
40	自由の中でのソーシャルワークということは素晴らしい発想だと感心しましたが、責任の所在が分からないところがありました。
41	自由度の高い、制約がない。コミュニティデザイナーは良いと思った。
42	実際に個人負担が多くなれば、活動も消極的になってしまいますので、出来る方、参加できる方を多くする機会を与えて頂き、顔のみえる仲間から楽しみに変化したいと思います。
43	取り入れたいとは思いますが、専門職でない分、ストッパーが効かない事が心配。頑張りすぎる面も、私共の地域では懸念材料になっているので。
44	取り入れていきたいが、活動をサポートするシステムを作っていく必要があるため、時間をかけて導入する必要があるかなと思うため。
45	住宅地であれば参加していきたいと思う。
46	住民が主体的に地域ケアに取り組む方法としてはソーシャルワークが不安となります。しかし、専門職の立場からいうと、ソーシャルワーク機能を根本的に理解していると思いますので、ソーシャルワーカー（社会福祉士等）を活用して頂きたい。

3-(2)住民によるソーシャルワークを取り入れたい、又は住民によるソーシャルワークに参加したいと思いますか。  
⇒その理由は何ですか。

47	住民によるソーシャルワーク、専門家によるソーシャルワーク双方が連携することでより充実したソーシャルワークが実施できるのだと思います。
48	住民によるソーシャルワークが有効になる事もある為。
49	住民によるソーシャルワークを見学してみたい。
50	住民に密着した支援が可能
51	住民の立ち位置が曖昧。ボランティアからの出発では責任の所在が曖昧。
52	住民の力は偉大。
53	住民主体という意識作りの基礎。
54	住民同士のつながりによる支え合いを波及させたい。また、多くの方へ周知したいと思うから。
55	色々難しそう
56	制度だけでは、まかなえないところがる。
57	生活モデルの考えを住民と共有できるから、住民と住民、住民と専門職のかけはしになる。
58	生活支援体制的整備事業との整理ができれば。
59	設問の意味がわからない。こういうアンケートの質問は少し違うと思う。
60	専門家がやっているワークではなく、素人の立場で、住民からはつきあいやすい、チームに入っていくやすい。
61	専門家の数は少ない。市や国がバックアップをして住民主体にすると活性する可能性も高い。
62	専門職だけでは、地域包括ケアシステムは成り立たない。住民によるソーシャルワークが有効に動けるよう、自分の立場から協力していきたい。（やれることをやっていけることから始めたい。）
63	専門職の方だけではなく、一般市民の方も高齢者に対して、関わりをもつことによって、高齢者のQOLの向上にもつながるのではないかと。
64	第二の人生で仙台に帰るが、そこでの地域への恩がえしをしていきたい。
65	地域に住むことは地域と関わらないといけないと感じているため（防災も含めて）
66	地域の人々のつながり、活性化になると思う。
67	地域を福祉的に変えていく 住民間コミュニケーションの活発化
68	統括できる部署がないと、中途半端になってしまうと思うので・・・
69	特にこれといった理由はありませんが、参加したいと思いました。
70	難しいと思うから。
71	日頃から自治会などの大切さを感じている。
72	日常生活に寄り添う事ができる。
73	日々の仕事に追われ、業務中に参加するもの難しく、プライベートな時間をあてることも正直きつい。

3-(2)住民によるソーシャルワークを取り入れたい、又は住民によるソーシャルワークに参加したいと思いますか。  
⇒その理由は何ですか。

74	必要とすることはもしかしたら、20年後そぐわなくなっているかもしれません。しかし、今必要とすることをできない限り、20年後も問題複雑なままかと、解決は難しくとも、常に改善をはかれるよう、多くの事柄に触れて行きたい。
75	包括にいるか、職員間に住民（専門職でない）に対する信頼、評価に差がある。言葉は悪いが、「シロウトに何が分かる」的な。住民活動を支えたいが、生半可ではないと感じる。小泉さんの幸手モデルは奇跡では。
76	薬局こそ、いろいろな問題の終着であり、解決への始発だと思う。
77	様々な社会資源を住民でつくることで自活体でケアしきれない部分が埋められるのではないかと思う。

(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

【厚生局】

- |   |   |
|---|---|
| 1 | パネルディスカッションでは、「医療・介護が先行して、ソーシャルワークはいい」とおっしゃっていましたが、自治体にいる者からすると、民生委員、自治体ボランティア等のネットワーク等はすでにできていて様々な活動している。そこに「医療介護連携」というものが入って、どう専門職を入れていくか、国であれば制度をどう地域課題の解決につなげていくのか、説明してくれないと、今回の話はこの事業、財源でやるの？と疑問を持った人は多いと思う。 |
| 2 | 明確な指針   |
| 3 | 2025年に向けて、本企画の様な情報を広く知る機会を設けていただきたいと思います。   |
| 4 | このような研修や現場と行政、国とのつながりを続けてほしい。   |
| 5 | マクロのデータ（医療）を提供してほしい。データの根拠がないと説明力がおちるので。  |
| 6 | 各自治体の多様な取組に対して柔軟な支援をして下さい。住民B型等のおしつけはやめてほしい。  |
| 7 | 国は地域のためにと住民の方に互助を進めていますが、実際厚労省の方は、自分の住む地域で、地域のために何かされていますか？   |
| 8 | 今後もこのような企画を続けて頂けると幸いです。さいたま新都心だけではなく、様々な場所に出張して頂けると幸いです。  |
| 9 | 法律を市町村に押しつけるのではなく、人材やノウハウの伝授も同時に行ってほしい。戸惑っている市町村も多い。  |

【厚生局・市町村】

- |    |  |
|----|--|
| 10 | 厚生局→ガチガチではなく、地方が利用しやすい制度を作ってもらいたい。<br>市町村→地域包括ケアを運営するNPO等がより経営安定できるよう補助をしてもらいたい。 |
| 11 | 厚生局→様々な情報提供<br>市町村→一緒に考えて行きたい。   |

【厚生局・都県】

- |    |   |
|----|---|
| 12 | 厚生局・都県→今後も自治体の活動を後押しして欲しい。応援セミナーをずっと続けて欲しい。 |
| 13 | 厚生局・都県→情報共有・発信が横つながりでできるようにして欲しい。           |

【厚生局・都県・市町村】

- |    |  |
|----|--|
| 14 | 厚生局・都県・市町村→今さら住民に色々やれというのは、乱暴。   |
| 15 | 厚生局→住民向けの啓発活動。専門家には、ゆるやかに理解が広まっているが、住民にとっては全く意味が通じない。<br>都県・市町村→方向性を定め、ブレずに連携して頂きたい。           |
| 16 | 厚生局・都県・市町村→こういう取組にぜひ栄養士（管理栄養士）も入れて頂きたい。「食」は生活の中心です。  |
| 17 | 厚生局・都県・市町村→市町村を都県、厚生局が支えてほしい。  |
| 18 | 厚生局・都県・市町村→社会福祉士が持つ専門性を考えるのではなく、コミュニティデザイナー、民生委員の育成、待遇の改善によって地域に参加できる場、中心となる人物を増やすことが必要であると思う。 |
| 19 | 厚生局・都県・市町村→地域特性があることを踏まえて同質化したものを求めず、必要な財源と、必要な支援をしてもらえるとよい。                                   |

(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

【厚生局・市町村】

20 厚生局→リーダーシップ  
市町村→フレキシブルの対応

【市町村】

21 住民の声をまとめ、応援する（つぶすのではなく）姿勢で対応、方向性を考えていくようにして欲しい。

22 「住民主体でやれ」「結果をだせ」「数字をだせ」というけれど、ソーシャルワークはルールをつくって制度としてまわせるような単純なものではないことを分かってほしい。

23 ぜひ協力させて頂きたいと思います。色々巻き込んで行ってほしい。

24 それこそ伴走してほしい。

25 まずは地域を知り、行政主体の基盤づくりを。そして地域包括の人員拡充を・・・。

26 やる気(さいたま市)・地盤づくりはやはり行政主導であるべき(幸手市のように)

27 格差をなくしてほしい

28 基盤づくりを。もっと柔軟な発想で、具体的に行動をしてほしい。

29 現場の様子を見て、統一ではなく各地区に合わせた施策取組を考えてもらうことを期待しています。

30 行政の方向性を出して欲しい。あらゆる方向を見て、万能な状態にしたいのは多少理解するにしても、見方によっては「あいまい」と写る。

31 国や県の施策ありきで、課題をこなすための施策(モデルケースの引用・会議のための会議など)ではなく、住民や現場の声を吸い上げた上で国や県の施策に当てはめていくような行政を行っていただけると地域包括ケアも進んでいくのかと思います。

32 今まで通りの支援

33 参考となる他地域の事例の共有、紹介等

34 市民に対するソーシャルワークの重要性の周知

35 指導力、一緒に動いてもらえる行動力

36 自治体にもよるとは思いますが、地域づくりに対してあまりにトップダウンになってしまっている現状があると思います。地域に自由度が必要だと思います。

37 社会資源の少ない地域でケアマネをしていると他地域の取組をうらやましく思う事がある。インフォーマルなサービスをもっと充実してほしい。

38 住民だけでは地域づくりを進めていくのは難しいと感じている。行政にも地域活動に参加してほしい。

39 住民主体でと言われるが、基盤ができた後も自治体と住民が共に進めていくことが大切。丸投げしないでほしい。

40 情報公開

41 生活支援コーディネーターとして、もっと区や市と連携して進めたい。

42 地域づくりの具体的なビジョンが明確ではない。

(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

43	地域包括ケアには行政がもっと踏み込んで頂き、住民の声が届くサービスを考えて頂きたいです。世間から孤立していたり、輪に入れない、人々も救えるような制度見守りができたらと思います。
44	地域包括ケアの必要性は現場にも住民にも浸透していないように思う。周知をして欲しい。いくら包括などが必要性を訴えても限界がある。市町村の役割としてHPにのせる等、一部の人にしか伝わらない方法ではなく。
45	地域包括支援センターのコーディネーターだけでは、出来ないことが多いので、行政と協力して活動が大切になってくると思う。
46	包括支援センターが開催する地域ネットワーク会議があるが、参加すると、包括の方と、民生委員ばかりです。もっと行政や医療関係者が入って専門職の方との連携を図れば、同じ目線で話ができるのではないかと考える。
<b>【都県・市町村】</b>	
47	都県・市町村→地域包括ケアというくくりの中で地域包括支援センターがその中に入っているというのはよく言われるが、例えばその中に参加したいと考えている。民間の介護サービス提供事業所にも門戸を広げてもらえる（広げているという広報をしてもらえる）ようにしてほしい。
48	都県→フットワークの軽い行政 市町村→業者との連携をしていける行政
<b>【その他】</b>	
49	「介護度がどれだけ軽くなったか」「介護費用がいくら減ったか」を地域包括ケアの尺度としないようにして欲しい。和光モデルでは、権利を侵害している例が見られる。しかも権利を侵害しているのが、市である。「地域包括ケア」と称して、個人情報、権利侵害で問題があった時、どこに相談すればよいか明確にしてほしい。
50	今回「ソーシャルワーク」について初めて知ったような初心者ですので、この時点では何とも言えません。今後勉強していきたいと思います。
51	うしろに専門職がいて、対応してくれる。システムが大切と分かりました。でも連携が大切と思いません。
52	コロコロ制度を変えないでほしい。きちんと根拠を示して現実可能な策を出して下さい。
53	サービスBの話が出ましたが、介護保険の仕組みの中ではどうしてもしほりがあるため、介護保険の代替ではなく、本日話にあったように例示としてのスタンスを明確にしてほしいと思います。
54	それぞれの部署の連携と、大局的視点をもった支援（金銭的ではなく）
55	もっと現実にあった改善をして欲しい。
56	モデル事業の発表（地域性があるので、そのまま取り入れることはできないが、ヒントとなるので、ぜひ、他市の良い活動を知る機会を設定して欲しい。）
57	活躍できるような人材はいるが、場所がない。
58	見守り、具合の悪い時に買い物や食事を持ってきてくれる。
59	現場の現状を理解して欲しい。
60	幸手モデルのような、いろいろな組織が重なり、取り組めたらいいと思う。
61	幸手モデルを参考に地域や人の課題を解消し、地域での孤立を防いでほしい。
62	幸手市の様々な良い取組をして欲しい。

(4) 今後、地域包括ケアを推進する上で厚生局や自治体に期待することは何ですか。

63	行政のたて割が障害になるので、枠を外して欲しい。地域福祉課と支援課など、互いに協力的な立場であると思うが各々の評価が大事となり、(自己防衛も重なり)非協力体制であるため、国から変わって欲しいと切に願っている。
64	行政側は理想ばかり訴え、実際、行動が伴っていない事が多く、住民の人達の評価は「我々が協力しても行政側は理解してくれない！」よく聞く話です。
65	財源
66	事業を進めていくにあたり丸投げではなく、ともに伴走して行って頂きたいです。
67	自治体の強さ(組織)
68	実際に、本日の様々な取組を作っている事例の紹介をどんどん行って広く知ってもらう事は重要と思います。
69	住民によるソーシャルワークへの専門職のフォローがスムーズに簡便に受けられるような仕組みづくり。
70	住民の方や一般の方が医師等専門家に気軽に相談出来る体制の構築
71	小単位で実施して欲しい。問題の出し合いではなく、解決策へのアプローチを共有する場であって欲しい。
72	情報拠点、行動拠点を古く大きな団地に積極的に作ってほしい。
73	色々な事業を改正のたびに組み込んでいるが、利用者にとっても書類の煩わしさが発生する。
74	人員を増やす
75	税金を使って、人を支えることは必要なことでもありますが、税金に頼らない地域支援をもっと考えてもらいたい。様々な言葉を含むのは行政ですが、実際に事を始めるのは、個人であったり民間が多いのではないかと考えています。そうした活動を、もっと評価して、サポートしていただける様になることを期待しています。
76	前例にとらわれない法律は、金銭的、人的サポートを期待します。
77	全般的に特に地方自治体は担当者が地域包括ケアを行う、活動について何らかのしほりをつけたい。カンファレンスは、対等の立場で参加して欲しい。
78	地域ケアができるような制度、しくみ、お金を期待する。
79	地域包括ケアは地域格差を広げるように感じてならない。必ずどこの地域にも「小泉さん=若く、理解、能力、意欲のある人」はいるわけではない。自治会、地域に人材がなければどん詰まり感いっぱいである。地域包括ケアのその先に何かあるのか。やっぱり見えてこない。
80	中野先生の“新しいセーフティネットをはりなおしている”その言葉に感銘を受けました。厚生局、自治体、我々も含め時代や環境に即したセーフティネットの実現のために、連携と推進を期待しております。
81	保身に走らず、柔軟性を持つこと。